



「しんせつ」北九州

～人を信じ人を愛し人につくす～

「しんせつ」北九州 第54号

● 編集・発行人
代 表 影山 英雄

● 事務局長
菅原 良三

● 発行所
「小さな親切」運動
北九州市本部

〒802-8511
北九州市小倉北区船場町1-1
(柳井筒屋友の会内)

「小さな親切」運動 北九州市本部

ご挨拶

代表 影山 英雄



同を得、全国各地で「小さな親切」の啓発推進、実践活動の普及に努めてきました。

本年度は、ようやくアフターコロナの日常が定着し、北九州市本部もコロナ前と同様の活動を行うことができました。そのような中、本年度は作文コンクールが節目の50周年を迎えました。この作文コンクールは北九州市本部の中でも最も長く続いておりまして、今年も小中学校71校から、1,389作品という多くの応募があり、盛大に表彰式も開催致しました。

会員の皆様におかれましては、日頃からそれぞれの地域、職場、学校で、小さな親切運動に対し多大なご協力を頂いておりますことに深く感謝を申し上げます。

「小さな親切」運動は、茅誠二先生の言葉『小さな親切』を勇気を持ってやって頂きたい。それがやがては、日本の社会の隅々まで埋めつくすであろう、親切という雪崩の芽としていたいただきたい。』を原点に昭和38年(1963年)6月に全国本部が発足し、現在まで多くの皆様の賛

同を得、全国各地で「小さな親切」の啓発推進、実践活動の普及に努めてきました。

北九州市においては、主旨に共感した数多くの女性の皆さんが中心となって大変熱心に推進普及活動に取り組まれ、その結果、昭和48年(1973年)5月の地方組織として北九州支部が設立されました。その後、昭和50年(1975年)に北九州市本部へ名称変更し、同年に八幡東区支部が発会、昭和55年(1980年)に若松支部が発会し、個人、企業、団体など多くの皆さんに支えられて、「小さな親切」作文コンクールの開催や日本列島クリーン大作戦の実施などを通じて、「小さな親切」の大切な心が、脈々と受け継がれています。

私たちの「小さな親切」運動のスローガンは「できる親切はみんなです。それが社会の習慣となるように」です。このことを会員の皆さん一人一人が率先垂範で、日々実践に移して行くことが大事だと思います。

会員の皆様方におかれましては「小さな親切」八か条を具体的に実践していただくとともに「小さな親切」がさらに大きな輪になっていくよう温かいご支援とご協力をお願いいたします。

終わりになりますが、皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

北九州市民憲章

わたしたちのまち北九州市は、美しい自然に恵まれ、ながい歴史とたくましい産業をうけついできました。
わたしたち北九州市民は、このまちを愛し、よりいっそうの市民参加によるまちづくりをめざしています。
このふるさとに、実りある未来を築くため、わたしたちはみんなで守る約束を定めます。

緑を豊かに 清潔で美しいまちにします
きまりを守り 安全なまちにします
人を大切に ふれあいの輪をひろげます
元気で働き 明るい家庭をつくります
学ぶ楽しさを深め 文化のかおるまちにします

「小さな親切」八か条

1. 朝夕のあいさつをかならずしましょう。
2. はっきりした声で返事をしましょう。
3. 他人からの親切を心から受け入れ「ありがとう」といましょう。
4. 人から「ありがとう」といわれたら「どういたしまして」といましょう。
5. 紙くずなどをやたらにすてないようにしましょう。
6. 電車やバスの中でお年寄りや赤ちゃんをだいたおかさんには席をゆずりましょう。
7. 人が困っているのを見たら手つだってあげましょう。
8. 他人のめいわくになることはやめましょう。

贈呈 「しんせつ」実行章キャンペーン

「しんせつ実行章キャンペーン」展開中

心あたたまる親切をありがとう！


「小さな親切」実行章

しんせつな人、探しています。

令和6年11月1日～令和7年10月31日までの受章者


親切をした方や団体を推薦していただき、実行章の賞状を贈呈して表彰します。
 令和6年11月から令和7年10月までの間に、3人の方へ実行章を贈呈させていただきました。実行者の皆様に心より敬意を表するとともに、ご推薦くださいました皆様に感謝申し上げます。
 ほんの些細なことでも、受けた人や見た人がその「しんせつ」に感謝する気持ちさえあればいいのです。皆様からのご推せんをお待ちしています。是非とも皆様からの多数のご推せんをよろしくお願ひします。

個人 田中 靖朗様(若松区)




20年以上もの長い間、高塔山の登り口近くの落ち葉やゴミを拾い、草取りをしていつもきれいに清掃されています。

個人 白坂 順子様(小倉北区)



スピナート外の銀行ATMでお困りの様子のご高齢のご婦人を見かけて声をかけたところ、ご婦人が倒れそうになり、白坂さんがとっさに体を抱え上げることができて怪我はありませんでしたが、自力で立ち上がれない様子だったため周囲に助けを求め119番通報をもらって事なきを得ました。白坂さんは普段から消防訓練で救急法や心肺蘇生法等を習っていてそれが活かされてよかったと言われていました。

個人 山口 興志郎様(若松区)

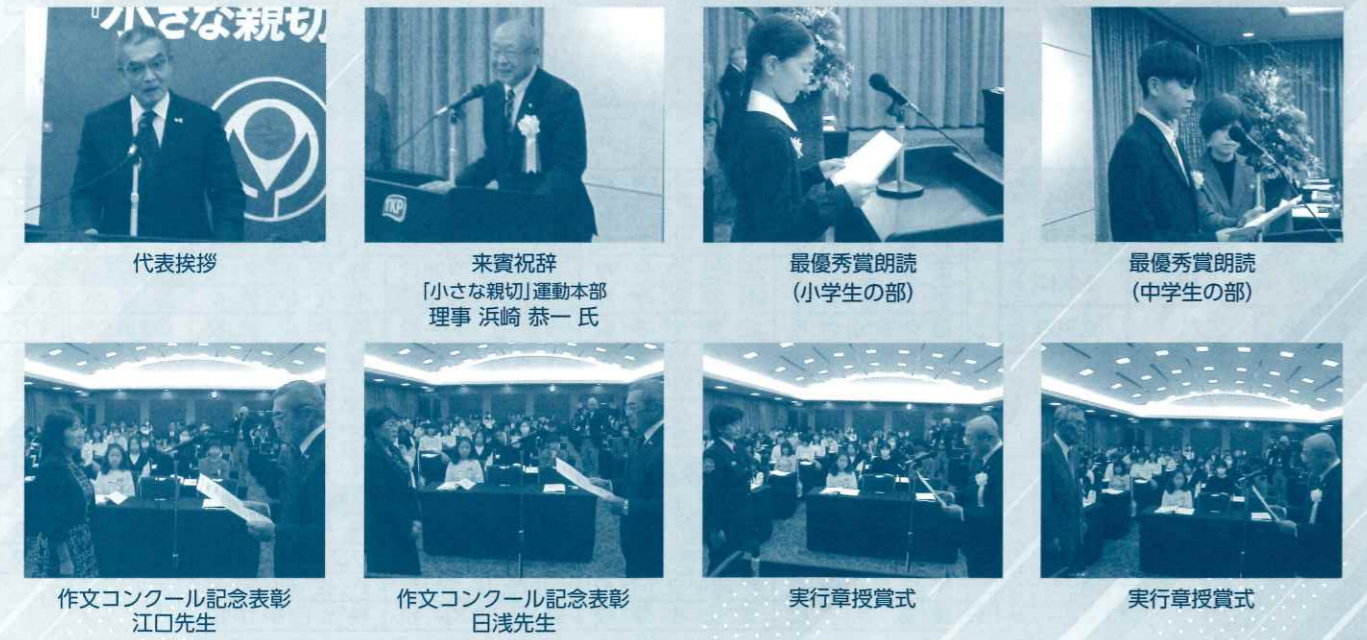


何年にもわたり、他人の駐車場の草むしりをされています。その場所が高い崖のためハシゴをかけてきれいにされています。その近くの国道もきれいに掃除されていて通行する皆さまに喜ばれています。

「小さな親切」運動北九州市本部大会

令和7年11月15日(土) クエスト第2ビル6階大ホール

令和7年11月15日、北九州市本部大会を開催。作文コンクール表彰、実行章贈呈をおこないました。作文コンクールは今年で50回の節目を迎え、長年にわたり審査を支えてくださった審査員長の江口恵子先生と審査員の日浅俊子先生の功績を称え、第50回記念表彰の賞状を贈呈しました。



代表挨拶
来賓祝辞
最優秀賞朗読
最優秀賞朗読

作文コンクール記念表彰
作文コンクール記念表彰
実行章授賞式
実行章授賞式

江口先生
日浅先生

街頭で「実行章キャンペーン」をPR



6月7日(土) 小倉井筒屋周辺

令和7年6月7日(土) 街頭キャンペーンを小倉井筒屋周辺で午前、午後の2回行いました。国際ソロプチミスト北九州・国際ソロプチミスト北九州-南・国際ソロプチミスト北九州-東・小倉井筒屋・総勢23名の方に参加いただいて「しんせつ実行章推進キャンペーン」をPR。
 リーフレットとコスモスの種700セットを配布し、運動の広報活動を行いました。

2025 日本列島クリーン大作戦

本年度も北九州市環境局と共催で「日本列島クリーン大作戦」を開催。市内6か所で開催予定でしたが、本年度は雨天中止の日が多く、実施できたのは2か所の会場でした。市民会員1,020人が参加。回収ゴミ量約710kg。市街地・公園・河川・山道などの清掃を行いました。
 小倉北区では6月8日(日) 勝山大芝生広場で実施予定でしたが、残念ながら雨で中止となりました。



八幡東区支部

6月1日(日)に河内クリーンウォークを開催しました。この取り組みも今年で22回目。221名が参加。河内貯水池周辺でウォーキングを楽しみながら、これから訪れる人々に河内の美しい自然を満喫していただけるように熱心に清掃活動に取り組んでいただきました。

令和7年度 会員総会

6月21日(土) 会場:クエスト第2ビル5階 TKP小倉シティセンター K-1会議室

プログラム

- 令和6年度事業報告・決算報告
- 令和6年度会計監査報告
- 令和7年度事業計画(案)・予算(案)
- 「小さな親切」実行章贈呈



影山代表挨拶
実行章贈呈式
実行章表彰者

第50回「小さな親切」作文コンクール



★小学生の部 見えない宝探し

《最優秀賞》《全国コンクール 優秀賞》

明治学園小学校 6年 能美 にな

「お手伝いしましょうか?」

止めてある自転車をガチャガチャと移動させている男性に、私は声をかけた。評判の町中華のお店の前は、いつも自転車でいっぱい。きつと自転車同士が絡まって、出せなくなりました。

「え、暑いのにいいの?助かるよ。」

「さげいになると、気持ちがいいね。これでも大丈夫。間に合ってたよ。」

整理し終わった後、ちらりと時計を見てから男性は笑ってそう言った。間に合ってたというところ。尋ねる私に微笑んで、彼は自転車を乗って帰っていった。

しばらくすると、このことと音が聞こえてきた。向こうのほうから白杖を使って歩いてくる人がいるのだ。そこではとっちらかっていた。自転車が止まっていたのは点字ブロックの上だったんだ。母によると、白杖の方は毎日この道を通っているらしい。きつとあの男性もそれを知っていたから「間に合った」という表現をしたのだ。もちろん、今は点字ブロック上に自転車は一台もない。白杖の方は何事もなかったかのように、通りの向こうへ歩いて行った。私は感動した。理由を言わずにさっそうと帰っていったあの男性を、心の底から尊敬し、かっこいいと思った。普段から周囲に気を配り、優しい気持ちを持っていないけれど、男性の行動の真意に気が付いたとき、日常の中に隠れていた宝物を見つけたような温かい気持ちになった。その後も何度か同じ場所、あの男性を見かけた。私が清掃活動で点字ブロックの上のごみを拾っていたら、「お、やってるね。よく気づいたね。」と声をかけてくれた。男性のように、かっこよく行動できる人になれた気がした。そして彼の優しさをつないでいた自分のことを、とても誇らしく感じた。

親切とは、相手がいて初めて成り立つものだと思ふ。そしてその第一歩は、周囲に関心をもち、気が付くことだ。相手のことをわかりたい、何かしたいと湧き上がるおもしろい気持ち。気が付くようになった時、親切は生まれる。それはきつとでも自然で、全く恩着せがましきものだろう。たとえ相手に知られることがなくても、そこには確かに親切というきらきら輝く宝物が存在する。もしかすると私も、まだ気が付いていないたくさんの親切に、包まれているかもしれない。見えない親切に気が付けば、また新しい親切が生まれる。あの男性の真意に気が付いた私のように。

周りをよく見てみよう。あんなに優しい気持ちで、そうすれば世の中にあふれている見えない宝物を見つけれられるはずだ。

★中学生の部 親切の波紋

《最優秀賞》《全国コンクール 優秀賞》

北九州市立洞北中学校 1年 野田 統希

「全国各地で、40度に迫る地域が相次ぐ見込みで、引き続き熱中症に警戒が必要です。」夏休みも一週間が過ぎたある日、父の運転する車内で、テレビから流れる声を何気なく聞いていた。熱中症に関するこのフレーズ、この夏、何度聞いた事だろう。毎日、聞いているため右から左に聞き流すだけだった。

用事を済ませ、帰宅途中の正午過ぎ。普段なら15分程で着くはずが、今日は全然進まない。次第に渋滞が始まり、進まなくなった。「事故かな。」と父が一人つぶやく。私は、涼しい車内で、アスファルトからゆらゆらと立ち昇る陽炎を眺めながら、渋滞の先を見ている。しばらくすると、人が歩く程の速度で停車を繰り返して進み始めた。それから5、6分経過した時、ようやく渋滞の原因が判明した。大きな交差点の手前。片側3車線の真ん中で、若い男性が車から降り、携帯を耳に当て、後方の車に右手を真上に挙げ大きく振っている。それに気が付いた車は早々に左右に避け先を急ぐ。そんな中、父は避けるどころか、その車の真後ろまで行き車を停めた。すると父は、「故障?押してくる。」と一言だけ言い残し、若者の元へ。若者は後ずさりをして、頭を何度も下げていた。文句を言われると思つたのだ。父が若者と言葉を交わすと、若者は車に乗り、父は車の後ろに回り込み、両手をトランクに押しつけた。父が言い残した押しつけてくる。「の意味がその時理解できた。が、人の力で車が動くのか?と疑問を感じた。私は前のめりにその様子を見ていた。両手と体を車に押しつけて、踏ん張る足にグツと力が入る。頭から汗が滴る。道は坂道で車は簡単に動かない。次の瞬間、私は気が付くと無意識に車を降り、父の元へ向かっていた。同時に周囲の人達も車から降り父を助勢し、安全な場所に移動させることができた。父の親切が、みんなを動かした瞬間だった。誰もが面倒に関わりたくなく避ける中、一番に行動した父を尊敬した。同時に私はある疑問を感じた。車に戻り汗だくの父にその疑問を投げかけた。「なぜ僕を誘わずに一人で行ったのか。」

その疑問に対し父は、「もう中2、自分で考え行動できるようにならないけんよ。」と私の自主性に任せるため誘わなかったのだ。その時、一緒に降りることができなかった私は後悔した。父の躊躇しない行動が親切の輪となり波紋のように広がった瞬間を目の当たりにした私は、更に「一番最初に行動する勇氣。」はどうすれば持てるのかを聞いてみた。すると父は「まずは色々経験すること。車が人の力で動くことを知らなければ何もできない。失敗してもいいから色々な経験をすることが大事よ。」と教えてくれた。父の教え。困った人を一番に助けることができる人になるために色々なことを経験して知識を増やし、今度は私が最初に行動して親切の波紋を広げ、親切あふれる社会にしたい。

第50回(令和7年度) 小・中学校から応募 1,389点

「小さな親切」作文コンクール



今年は北九州市内全域より小学校 44校 358点、中学校 27校 1,031点 合計 71校 1,389点の応募がありました。心温まる親切のエピソードがたくさん寄せられました。

北九州市本部選考におきましては、最優秀賞、優秀賞、佳作あわせて72名の入選者を決定し、最優秀賞には小学生の部・明治学園小学校 6年 能美になさんの「見えない宝探し」、中学生の部・洞北中学校 2年 野田統希さんの「親切の波紋」が選ばれました。

全国コンクールでは、《優秀賞》明治学園小学校 6年 能美になさん、洞北中学校 2年 野田統希さん、《入選》小石小学校 3年 宝田千暖さん、戸畑中央小学校 4年 村田恵麻さん、二島中学校 1年 有働薫さん、大谷中学校 1年 新井颯志さんが選ばれました。

第50回 北九州市本部「小さな親切」作文コンクール入賞者

〈小学校〉

成績	区名	学校名	学年	氏名
最優秀	戸畑	明治学園	6年	能美 にな
優秀	門司	藤松	1年	永谷 凜
優秀	小倉南	高蔵	1年	出口 稀大
優秀	戸畑	明治学園	2年	申 ハナ
優秀	小倉北	福岡教育大学附属小倉	3年	井手口 侑功
優秀	小倉南	徳力	3年	島添 紗帆
優秀	小倉南	高蔵	4年	大北 莉子
優秀	戸畑	戸畑中央	4年	村田 恵麻
優秀	若松	高須	4年	松岡 采芭
優秀	戸畑	牧山	4年	尾前 陽斗
優秀	小倉南	高蔵	4年	梶谷 柚羽
優秀	門司	白野江	5年	西浦 莉緒
優秀	門司	藤松	5年	坂本 良祐
優秀	若松	二島	5年	広渡 亜梨紗
優秀	八幡東	八幡	6年	高田 瑛斗
優秀	門司	萩ヶ丘	6年	武田 悠希

〈中学校〉

成績	区名	学校名	学年	氏名
佳作	若松	藤木	1年	齋藤 颯汰
佳作	八幡西	折尾東	2年	安高 壮良
佳作	八幡西	筒井	2年	川崎 晴陽
佳作	八幡西	則松	2年	木戸 椋愛
佳作	小倉北	福岡教育大学附属小倉	2年	大谷 ころこ
佳作	若松	小石	3年	宝田 千暖
佳作	八幡東	高見	3年	武内 凜々香
佳作	小倉南	高蔵	3年	小野 夏芽
佳作	門司	西門司	4年	南澤 京太郎
佳作	戸畑	一枝	4年	吉野 仁実
佳作	小倉南	高蔵	4年	溝辺 愛和
佳作	門司	萩ヶ丘	4年	打款 史織
佳作	八幡西	八幡	4年	三浦 笑菜
佳作	若松	深町	5年	大村 若菜
佳作	若松	二島	5年	鍛柄 柚那
佳作	若松	二島	5年	森重 帆乃香
佳作	八幡西	則松	5年	浦田 愛奈
佳作	若松	二島	6年	久保 奈央
佳作	若松	二島	6年	石井 理心
佳作	八幡東	八幡	6年	梁瀬 凌玖

成績	区名	学校名	学年	氏名
佳作	小倉南	企救	1年	園田 ひまわり
佳作	戸畑	大谷	1年	新井 颯志
佳作	八幡東	槻田	1年	波平 悠社
佳作	八幡西	沖田	1年	伊東 佑惟
佳作	八幡西	沖田	1年	伊東 愛性
佳作	八幡東	尾倉	1年	冨田 小暖
佳作	八幡東	尾倉	1年	安部 あかり
佳作	若松	洞北	1年	久保 愛珠
佳作	若松	洞北	1年	添田 晴也
佳作	若松	洞北	1年	稲光 莉愛来
佳作	若松	洞北	1年	菅野 蒼真
佳作	小倉北	照曜館	2年	矢浦 彩葉
佳作	小倉北	照曜館	2年	中村 奏太
佳作	門司	柳西	2年	増谷 咲穂
佳作	八幡東	尾倉	2年	永瀬 知奈実
佳作	八幡東	尾倉	2年	渡辺 来河
佳作	八幡東	尾倉	2年	村谷 宗虎
佳作	門司	緑丘	3年	吉田 昊大
佳作	門司	緑丘	3年	奥村 和佳
佳作	門司	柳西	3年	秋元 美柚

第49回 北九州市本部「小さな親切」作文コンクール 応募学校・応募数

〈応募総数〉

	学校数	応募総数
小学校	44	358
中学校	27	1,031
合計	71	1,389

小倉北区(10校)	徳力小学校	明治学園小学校	柳西中学校	尾倉中学校
到津小学校	東朽網小学校	大谷中学校	八幡西区(9校)	槻田中学校
井堀小学校	守恒小学校	高生中学校	折尾東小学校	花尾中学校
富野小学校	吉田小学校	明治学園中学校	折尾西小学校	若松区(10校)
中井小学校	若園小学校	門司区(12校)	千代小学校	江川小学校
西小倉小学校	企救中学校	白野江小学校	筒井小学校	くきのうみ小学校
南小倉小学校	城南中学校	大里東小学校	則松小学校	小石小学校
福岡教育大学附属小倉小学校	田原中学校	大里南小学校	八幡小学校	高須小学校
足立中学校	湯川中学校	西門司小学校	沖田中学校	深町小学校
菊陵中学校	吉田中学校	萩ヶ丘小学校	折尾中学校	藤木小学校
照曜館中学校	戸畑区(9校)	藤松小学校	八幡中学校	二島小学校
小倉南区(14校)	一枝小学校	東郷中学校	八幡東区(7校)	石峯中学校
企救丘小学校	鞘ヶ谷小学校	早蕪中学校	高見小学校	洞北中学校
葛原小学校	天籟寺小学校	松ヶ江中学校	ひびきが丘小学校	二島中学校
すがお小学校	戸畑中央小学校	門司中学校	八幡小学校	
高蔵小学校	牧山小学校	緑丘中学校	枝光台中学校	



第50回「小さな親切」作文コンクール

《優秀賞》《全国コンクール 入選》

★小学生の部 ハートのじゅんかん

北九州市立戸畑中央小学校 4年 村田 恵麻

ようち園のころのことだ。

その時、私はろうろう下を歩いていた。すると、女の子が数人に囲まれていた。ひきつった空気で、女の子は冷たい視線を投げられていた。

私はしゅんでいじわるをされているんだと感じた。助けるか助けまいか。でも、助けたら今度は自分がいじわるをされるかもしれない。どうしよう。どうしよう。どうしてこんな事になったのだろう。でも、今はそれをたしかめることはできない。

その光景を見た私は、心がズキンズキンした。苦しかった。だけど、助けなきゃ。短時間だけど、私は頭の中で必死を考えた。

『誰でもいいから助けてほしいよね？』でも助けられるかどうか…。かえって逆効果になるのでは？『女の子の立場になってよく考えたらー』

次の瞬間、私は大声を出していた。「やめなよー」

その時は、それだけ言うのが精いっぱいだった。でも、勇気をふりしぼって、自分にできるだけのことはやった。

すると、いじめっ子たちはにげた。いじめっ子たちがどこかに行ってしまったとき、思わず「よかった」という小さな心の声が出て、ホッとした。

その後、女の子に「ありがとう。助かったよ。」と言われた私は、ジャンプしそうになるくらいに、うれしかった。心があたたかい気持ちでいっぱいになった。

私をこんな気持ちにさせてくれた「ありがとう」は、まさにまほうの言葉だ。以前、大事なモノは目に見えないと聞いたことがある。「親切」も同じだ。目に見えないからこそ、大切にしていきたいと思う。

このことがきっかけで、私は困った人を見かけたら、堂々と「大丈夫ですが」と声をかけられるようになった。だから、私ができる「小さな親切」は、相手の立場になって、まず声をかけることだ。

「小さな親切」によって、相手に感しゃされ、しぜんと笑顔になり、相手だけでなく、自分の心もたされる。そして、親切を受けた人だけでなく、親切をした人もまた親切をしたと思う。とてもいいじゅんかんが生まれる。これからも、このハートのじゅんかんをつづけて、自分と周りをあたたかい気持ちでみたくしていきたい。

《優秀賞》《全国コンクール 入選》

★中学生の部 母から学んだ挨拶の力

北九州市立一島中学校 1年 有働 薫

私の母は挨拶のお手本だ。私は、小さな頃から母の挨拶を見ていた。母は誰にでも笑顔で明るい挨拶をする。恥ずかしがり屋で人見知りだった私にとって、母は憧れだった。小学校中学年頃から、人見知りだった私も挨拶ができるようになった。しかし、母の挨拶にはまだ遠かった。母は挨拶に加えて、相手を気遣う言葉が自然と出るのだ。例えば、書き中工事現場で働いている方には、

「おはようございます。暑い中、苦勞さまです。十分水分摂られてくださいね。」

お掃除をされている方には、

「こんにちは。いつもきれいにしてくださってありがとうございます。ご無理されないでくださいね。」

といった一言。母は、受け取る相手がほっこりする言葉を挨拶の後に続けるのだ。母の言葉を聞いた人たちは、みんなやわらかな笑顔で、

「ありがとうございます。」

と返される。優しい空気に包まれる。

そんな母の姿を見ているうちに、私も少しずつ、挨拶の後に自分が思った気持ちも加えたいと思うようになってきた。

ある日の学校への登校中、停まっていたトラックから男性が工事道具を持って出てきた。私は、こんなに暑い日に朝から工事とは大変だろうなと思いつつ、いつもの母をイメージして挨拶をしてみようと思った。驚かれないだろうか、嫌がられないだろうかと不安な気持ちで胸がいっぱいになったが、思いを伝えたいという強い気持ちもある。そして、ついに、

「おはようございます。おつかれさまです。」

という言葉が自然と口から出てきたのだ。目が合った男性は少し驚いたような表情をされたが、すぐに、

「おはよう。いってらっしゃい。」

と優しい笑顔を見せてくださったのだ。私は、その一瞬、これまでの私を超えて、母に追いついたような気持ちになった。そして、挨拶をする母の思いが分かったような気がした。それからは、挨拶をすることや声をかけることへの恥ずかしさは全て消え去った。しかし、私はまだまだ母のように思いをすぐに言葉にし、伝えることはできないし、正しい言葉を使っているのかも分からない。けれど、私は私だけの言葉で思いを伝えたいと思う。私の一言で誰かの一日が変わるかもしれないと思うと、声が小さくても、おかしな言葉であっても、自分の気持ちを伝えたいと思う。

挨拶の音がなかなか聞こえない近頃。勇気を出して挨拶をしてみることで、自分も相手も優しい気持ちになれるのではないと思う。さらに、挨拶に一言加えれば、自分だけの特別な挨拶へと変わる。みなさんもぜひ、自分だけの挨拶で、小さな親切を心がけてみてはどうだろうか。

《佳作》《全国コンクール 入選》

★小学生の部 おじさんの梅干し

北九州市立小石小学校 3年 宝田 千暖

私には、親せきの中に、左手がかたから失いおじさんがいます。子どもの時に事故にあつて、左手をかたから失くしたそうです。

それでもおじさんは自分でいろいろな勉強をして、もちろん仕事もしていました。おじさんを若い時に失くし、家事や子育てもまわりの人に協力してもらいながら生活していたそうです。車の運転や日曜大工、犬の散歩に自転車の乗りこ、泳ぐことも出来るし魚つりも好きでした。

おじさんのつけてくれる梅干しは最高においしくて私は大好きです。右手でひとつひとついねいにあらってつけてくれます。お日様に梅干しをあてて天日干しをしています。私も何度かいつしよにしました。いつしよに梅干しを作っている時のおじさんはここにいます。私も「おいしく出来るぞ」と思いながら楽しく手つたっています。

そんなおじさんも80才をすぎたころから、少しずつ出来るものがへっていききました。今は「認知症」を発しようとしています。

顔を見に行つて声をかけると私のことが、わかる時とわからない時があります。

「あんた、だれやったかね？」と聞かれると悲しい気持ちになるけれど、私のことがわかる時は、「ジューズ、れいぞうこにあるぞ。ゼリーもあるぞ。」と言ってくれます。その時はありがたうと言つてもいいです。おじさんもうれしそうに顔をしてくれくれます。

体が不自由でもいろいろな事にちよう戦つてがんばつてきたおじさんを見ると、私は今元気が大きくなっているのだから自分の事をもう少しがんばろうと思えます。出来る事はたくさんあるのに「したくないから」を理由にさぼつてしまっています。調子のいいときは「ちよつとこれしてー」とおじさんは声に出してくれます。助けて欲しいと言つ事も大事なんだと思つけど、たのまれた時に気持ちよく「いいよ」と言える私になりたいです。

そしてまた、たのまれなくても気がつける私にもなりたくし、自分も助けてほしい時には「助けて」と言える私になりたいです。

おじさんとの時間の中で、たくさんおじさんのびつくりすることや発見もあり、いろいろな人が生きていく社会の中で少しでも、人のやくに立つ、自分を大切に出来るようになりたいと思つています。

おじさんと梅干しをつける事はもう出来ないと思つけれど、おじさんの梅干しをこの夏も大事に食べています。おじさんのあい用だった土などでごはんをたいてもらつて。私にとつておじさんの梅干しは夏バテ防止の元気のもとです。これからもおじさんの家に顔を見に行つて声をかけ、うれしそうに笑つてくれる日をふやして欲しいように思います。

《佳作》《全国コンクール 入選》

★中学生の部 小さな親切

北九州市立大谷中学校 1年 新井 颯志

夕食の後、キッチンから妹と弟の泣き声が聞こえてきました。下の弟は、いつもよりぐずつていて、お母さんは、片付けにおわれ、少し困つた顔をしていました。妹たちの機嫌が悪いのを感じた僕は、お母さんに「お風呂に入れようか」と声をかけました。

いつも妹たちをお風呂に入れると、「いやだー!!」と泣いてしまつたり、何か失敗したらどうしようという小さな不安もありました。しかし、お母さんが余裕なく動いているのを見て、力になりたいという思いが強くなりました。

妹と弟は、なかなか動いてはくれませんでした。私が僕と手をつなぐと笑顔になり、お風呂場まで来てくれました。僕はやさしくお湯をかけながらあわて体を洗つてあげました。弟は、ほつとしたのかあわて遊び始め、小さな笑い声が聞こえ、つられて妹も笑い始めました。「出来て良かった」という気持ちと同時に「僕も誰かのために出来ることはある」という自信がでてきました。

お風呂から上がった妹と弟は、すっかりご機嫌になって、汗が引いた僕を見て、「そうしー!!」と呼んでくれました。たった一言でしたが僕はとてもうれしく感じました。小さな行動でも相手の気持ちを楽にしたり、自分にとつての喜びにもなる。僕は親切つてこういうことなのかなと思つきました。

振り返ると、最初は行動に移すことに迷いがありました。声をかけるのも恥ずかしかったし、いつものように泣くんじやないかと不安にもなりました。そのため、できない自分を責めてしまつこともありました。でも、結果的に妹や弟の気持ちを少し楽にできたことで、「行動して良かった」と心から思いました。お母さんも「本当に助かつたよ、ありがとう」ととても喜んでくれた顔を見て、また手伝いたいなと思つきました。

これから僕は、家族が困つている声に気付けるようになりたいです。たとえば、妹と弟の保育園バックを持つたり、ご飯の準備を手伝つたり。それは小さなことではありますが、大好きな家族の笑顔をつくる大切な一歩になるはずなんです。家族から始まり学校の友だちや僕の野球チームの仲間たち、さらにはもっといろんな人たちに小さな親切を届けられる人になりたいです。

小さな親切は、ほんの少しの勇気で始まります。妹と弟をお風呂に入れてあげた日から、妹と弟たちをお風呂に入れてもいやがらず入つてくれたり、家族からありがたく思われたりして僕はとてもいい気持ちになりました。私はそんな勇気を胸に、これからも誰かを思いやれる人でありたいと心から思います。



第50回「小さな親切」作文コンクール

独居老人年賀はがき

今年で41回目。一人暮らしのお年寄りに心温まる年賀状を。

今年も約560名の方にあたたかな年賀状をお送りすることができました。

ご協力いただきました小・中・高等学校またボランティア団体の皆様、有り難うございました。

◆協力校・団体◆

大蔵小学校、高見小学校、花尾小学校、二島小学校、赤崎小学校、
深町小学校、一枝小学校、枝光台中学校、高見中学校、花尾中学校、
向洋中学校、東筑紫学園高等学校、八幡高等学校、
国際ソロプチミスト北九州一東、若松支部



令和7年12月19日(金) 宛名書きボランティア
於:クエスト第2ビル 4F (株)井筒屋 人事研修室

ご寄付

(令和七年順不同)

◆古切手

岡田 黎子 様

大庭 弘子 様

重住 恭子 様

小田 國次 様

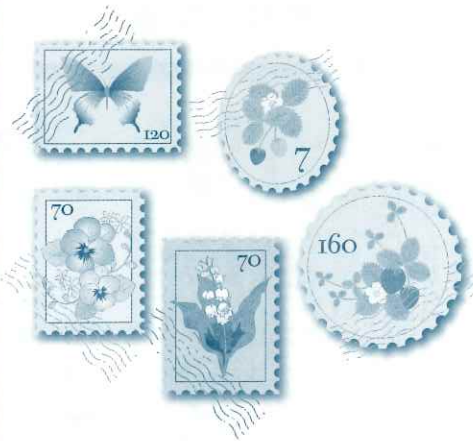
吉村 啓子 様

力丸 美智子 様

ソロプチミスト北九州一東 様

北九州商工会議所 様

たくさんのご寄付をいただき、
誠に有り難うございました。



人会と推せん

会員には季刊冊子(5月、7月、10月、1月発行)をお送り致します。

法人会員
年間3万円~

賛助会員
年間1万円

個人会員
年間2千円

団体会員(10人以上)
おとな 年間500円
高校生以下 年間300円

「小さな親切」実行章の推せん

「小さな親切」実行者の住所・氏名・年齢・内容・推せん者の住所・氏名・TELを書いて北九州市本部までお送りください。選考のうえ実行章を贈ります。